

令和6年度政務活動報告書（会派用）

会 派 名 心豊かな社会をつくる会
代表者名 大草よしえ

政務活動テーマ	活 動 内 容
「科学・技術の地産地消」と銘打ち、地域の多様な知的資源が既存の枠を超えて教育・研究・経済に最大限活用され循環していく持続可能なエコシステムの形成 主な市政キーワード： ◎世界に発信できる東北発イノベーション創出 ◎人が集い、新しいチャレンジが生まれる都心づくり ◇イノベーション・エコシステムの創出 ◇リサーチコンプレックス形成 ◇起業家・スタートアップ支援 ◇グローバル・スタートアップ都市 ◇科学技術を生かしたまちづくり ◇国内外から選ばれる都市 ◇グローバル MICE 都市 ◇仙台市観光戦略 ◇DX 推進	（1）「世界に発信できる東北発イノベーションの創出」 ・本市 10 か年の基本計画に掲げる「世界に発信できる東北発イノベーション創出」の実現には長期的かつ階層的・広域的な産学官連携による取り組みを強力に推進していく必要があることから、学术界、産業界、行政機関、教育機関等、多様なセクターに対するヒアリング・意見交換を行うとともに、国内外の他都市事例の調査研究を実施し、本市の現状と担うべき役割について、課題抽出及び提言のための研究を継続的に行っている。 ① 次世代放射光施設の利活用 ・リサーチコンプレックス形成の核として位置づけられている次世代放射光施設「ナノテラス」の仙台市による利活用については、運用開始後も地域から多くの声を頂戴していることから、学術・産業・教育・行政機関など、ナノテラスに関係する幅広いセクターにアリングや視察、情報交換を継続的に実施し、課題抽出を継続的に行っている。 ② イノベーション・エコシステムの創出 ・リサーチコンプレックスの形成によるイノベーション・エコシステムの創出にむけて、課題抽出を行うため、学术界や産業界、行政機関等、多様な関係者にヒアリングと意見交換を継続的に実施しており、本市が担うべき役割について分析を行っている。

・関係者へのヒアリングの結果、リサーチコンプレックスの基盤となる、大学等を核とした産学官連携による産業クラスター形成のこれまでの経緯についても調査研究を行う必要があることがわかったため、関係者へのヒアリングや視察、研修会の実施などを通じて情報の共有化を図っている。

・イノベーションが持続的に起こるエコシステムについての研究と実践を専門とする研究者に調査を委託し、国内外の都市におけるイノベーション・エコシステムの先行事例（論文等）について幅広く調査研究を行っている。

③ グローバル・スタートアップ都市

・令和7年第1回定例会で令和7年度施政方針に掲げられた「グローバル・スタートアップ都市・仙台」に関連して、スタートアップ企業の現状と本市における課題抽出を行うため、ベンチャー企業経営者や投資家、大学執行部、大学発ベンチャー、大学・高専や社団法人等のアントレプレナーシップ教育担当者にヒアリングを行っている。

・他地域のグローバル・スタートアップ拠点の先行事例について調査を行うため、東京都が令和6年度に開設した「Tokyo Innovation Base (TIB)」を視察した。TIBは東京からイノベーションを巻き起こすことを目指し、国内外からスタートアップやその支援者が集い（会員登録を行えば誰でも無料で利用可能）、交流する一大拠点として構築されたもの。TIBのコミュニティマネジメントを委託された業者は、本市が共創・イノベーション創出拠点「YUINOS」の運営を委託している業者と同会社（株式会社ATOMica）であり、コミュニティマネジメントの目的や手法等についてヒアリングを行った。さらにTIBを会場に開催された大阪のスタートアップ・エコシステム主催イベント「Kansai Deep-tech Meetup Day in Tokyo」も視察し、大

阪市におけるスタートアップ支援の取り組みや課題認識等についてヒアリングを行った。

(2) 学都仙台ならではの知的資源を最大限に活用した人材育成の仕組みづくり

① イノベーションにつながる科学教育

・ 仙台の未来を担うイノベーションを仙台から継続的に生み出していくためには科学的思考力の育成が必要不可欠との課題認識から、本市の大学・研究機関や行政機関、経済団体等にヒアリングを継続的に行っている。ヒアリング結果を踏まえ、大学や研究機関等が集積する学都仙台の知的資源を最大限活用し、大学等と連携しながら科学的思考力を育成するためのコンテンツ群の制作と指導體制を、科学館を拠点に構築すべきとの提言を議会で継続的に行い、具体的な進捗を得ている。

・ 次世代放射光施設をはじめとする加速器等の最先端科学技術を核としたリサーチコンプレックスの形成、産学官連携、科学教育・市民教育の取り組みについて、他都市の事例を調査するため、ILCを推進する岩手県、岩手大学、いわて産業振興センターの取り組みを視察し、産学連携を進める上での工夫点や、地域の課題などについて、ヒアリングや意見交換を行った。

② 産学官連携による半導体等次世代人材育成

・ 本市に研究シーズとしての強みがあり、かつ昨今デジタル社会の基盤としてその重要性が高まる半導体産業について、東北大学、東北経済産業局、東北経済連合会など地域の関係機関に継続的にヒアリングを行い、本市の課題抽出を行っている。半導体産業に象徴されるように国内外で今後ますます人材獲得競争がし烈を極めると予測される中、郡市長の掲げる「国内外から選ばれる都市」の実現には、高い教育水準が必要不可欠との認識に改めて至った。

・調査結果を踏まえ、産学官連携による半導体人材育成の先行事例として、佐世保工業高等専門学校と九州半導体・デジタルイノベーション協議会の産学連携による学生向けの講義「半導体デバイス工学」を視察し、次世代人材育成に関する意見交換を行った。

・調査結果を踏まえ、本市で15年前から先進的に行われている産学官連携による次世代人材育成の取り組みである「国際イノベーションコンテスト (iCAN)」(仙台市や東北大学、企業などでつくる「MEMS パークコンソーシアム」の主催)国内予選に引き続き着目し、iCANを活性化して既存事業と連携して有機的に展開することで、本市の強みを活かした産学官連携による高度人材育成体制を構築すべきと議会で引き続き提言を行い、仙台市長賞創設(継続)、市長応援メッセージ、本市スタートアップ支援事業との接続強化等、本市としての具体的なアクションに、昨年度に引き続き繋がった。

・本市がMEMS産業クラスター創業事業として構築した産学官連携「MEMS パークコンソーシアム」の初期主要会員企業「日清紡ホールディングス株式会社」を視察し、会長や関連企業から半導体産業の国内外の現状や今後のトレンド等についてヒアリングを行った。東北地方での半導体関連産業の集積促進にむけて、仙台市の施策として何が必要か(九州と比較し東北は何が足りないか)について情報・意見交換を行った。

③ 大学等と連携した生涯学習・学校教育

・郡市長の掲げる「科学技術を生かしたまちづくり」の実現には、人材育成の実質的な拠点と体制が必要であるとのヒアリング結果を地域の大学や研究機関等から得た。そこで、生涯学習施設でありながら学校教育に直結している本市科学館に着目し、令和7年4月の科学館展示リニューアルを契機に学都仙台の多様な機関との実質的な連携拠点として科学館を機能強化すべ

きとの提言を、調査研究結果を基に、具体的な提案も交えながら引き続き行っている。

・大学等との連携による科学館の新たな可能性について、文部科学省や仙台市議会事務局調査課等の協力を得ながら、仙台市内のみならず他都市の事例についても調査研究を継続している。令和6年度は新潟県立自然科学館（元日本科学未来館学芸員に地方の科学館の現状について）、札幌市青少年科学館（仙台市科学館と同委託業者による展示リニューアルについて）、盛岡市子ども科学館（仙台市科学館と同じ委託業者による運営について）、福岡ティジン大学（福岡市科学館における地域ネットワーク形成マネジメントについて）、京都市青少年科学センター（仙台市と同じく市教育委員会による直営の運営について）、青森県立三沢航空科学館（企業との連携展示について）、九州大学総合研究博物館（地域共創協学ミュージアムについて）、大阪市立科学館（リニューアル後の展示、大阪の科学史展示について）、琉球大学人文社会学部（研究者による生涯教育・社会教育の取り組みについて）、恩納村文化情報センター・恩納村博物館（図書館・博物館・観光施設の複合化による生涯学習について）、恩納村役場（社会連携型・部署横断型の地域資源の教育コンテンツ化について）、RA協議会（大学等による市民との共創について）を視察しヒアリング並びに意見交換を行った。

・学校教育と地域の大学・研究所等が連携して高度な探求学習を実践している先行事例として、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校の視察を2回行った。まずは探究学習の課題として指摘されている研究指導の具体的手法や現状の課題等について研究指導専任の特別非常勤講師にヒアリングを行い探求学習の現場を視察した。次に、校長と副校長と面談し、横浜市における開校の目的・経緯や、探究学習の指導体制、指導者の育成等の工夫や課題等について、ヒアリングを行った。

(3) グローバルMICE都市

・郡市長が令和6年度施政方針で掲げた「国内外から選ばれる都市、グローバルMICE都市」に関して、本市在住の様々な分野の研究者から要望の声が多数あった。現場の研究者へのヒアリングをもとに、本市の目指す「グローバルMICE都市」の実現には、大規模学会誘致のみならず、研究者が自他ともに「学会が開催しやすいまち仙台」と実感できる環境整備が不可欠であり、学会開催支援メニューのパッケージ化等、ユーザー視点に立った施策と情報発信が必要という観点を議会で指摘した。

・議会質問の結果、学会の開催規模に応じて予算規模の概要がわかるWebページが仙台国際センターHPに新設された。さらに議会質問を契機に、学会主催者情報交換会が本市初の試みとして開催され、学会開催ノウハウ共有支援のための場の創出に繋がった。

・国によるMICE施策の背景と今後の動向を把握するために、観光庁参事官（MICE）と面談し、本市における研究者の現状について伝え、地域で必要な施策について意見交換を行った。また、仙台市からの要望書や仙台市で開催された国際会議の視察結果等についてもヒアリング及び意見交換を行った。

・国による学会及び研究者の支援政策について現状と今後の動向を把握するため、文部科学省研究振興局と面談し、ヒアリング及び意見交換を行った。

・本市最大のMICE施設である仙台国際センターが令和7年度から大規模な改修工事期間に入ることから、学会主催者から要望のあった使いやすいMICE施設や、改修工事期間における分散開催の参考事例として、民営MICE施設（コングレスクエア日本橋）の視察を行った。

(4) 海外市場の関わりと海外展開推進

・激化する都市間競争の中で本市が目指す「国内外から選ばれる都市」の実現に向けて、現状と課題を把握するため、本市重要市場のひとつタイ・ベトナムへの仙台市長等によるトップセールスに同行し、他会派と連携して以下の項目について、調査研究を行った。

◇タイ赤十字管轄下の高齢者住宅

「Sawangkhavivats by Thai Red Cross Society」視察・意見交換（経済局同行）

◇タイ技能実習生送り出し機関「アサワラート人材派遣株式会社」日本向け専門学校の視察・意見交換（市長、健康福祉局同行）

◇タイ国政府観光庁アジア南太平洋担当副総裁訪問（市長等同行）

◇バンコク都庁都知事訪問（市長等同行）

◇仙台市主催観光PRイベント視察及びタイ旅行会社との意見交換（市長、文化観光局等同行）

◇バンコクFCオーナー意見交換（市長等同行）

◇仙台－タイ経済交流サポートディスク（東洋ビジネスサービス）意見交換（経済局同行）

◇日系企業（DON DON DONK MBK Center、One Bangkok 内の三越）等における仙台・東北産物の取扱状況について市内視察（他会派同行）

・仙台・東北の知名度の低さに起因する課題の大きさを実感するとともに、単に海外へ魅力を発信するだけでなく、日本国内での認知度向上や連携による相乗効果を図る取り組みの必要性を感じた。今後も他都市の状況等も含め、有効な施策について調査研究を進めていく。

（５）多様な市民の声を集めボトムアップ型で政策立案に繋げるための仕組みづくり

・「科学と社会」をテーマに、各界から多様な講師を招聘し、政策立案に資する議論を行う市民向けの研修会を定期開催することで、多様な市民の声を集める場をつくっている。議論の様子は、市民参加型の政策立案プロセス検証の一環

として公開することで、広く社会と共有する。
令和6年度は研修会の講師として、自治体首長、
天文物理学者、深海生物学者、元仙台高等専門
学校校長、元東北大学電気通信研究所所長、東
北大学未来科学技術共同研究センターシニアリ
サーチフェロー、東北大学 マイクロシステム融
合研究開発センターシニアリサーチフェロー、
東北大学史料館教授を迎えて計9回実施し、科
学と社会の関わりから、本市市政における課題
と今後の方策等について幅広い議論を行うこと
ができた。また、議論の結果は、議会でも取り
上げた。

（６）本市のDX推進計画とマイナンバー制度 に関する調査

・本市のDX推進に関して市民から多くの意見
や要望等を頂戴したため、本市DX推進計画の
目標に対する進捗を確認し、実施計画との齟齬
があった点については議会に取り上げて改善を
求め、具体的な進捗を得た。

・DXの基盤となるマイナンバー制度の本市の
現状についても、専門家に委託して調査を行い、
本市における課題を分析し、政策提案の検討を
進めている。

（７）議員向け研修会の受講、本市市政分析の 調査委託

・財務や行政課題など、議員として必要な知識
を得るために、各種団体が主催する議員向けの
研修を受講している。

・複雑化・多様化する行政課題の解決に資する
政策分析や施策提案の充実化を図るため、研修
会講師の専門家に、本市の市政分析並びに政策
調査を委託し、本市の市政課題について分析を
進めている。

※ この報告書は収支報告書に添付してください。